

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 32
2018・2・4

1 2018年度連邦有機農業コンクール：受賞者を表彰（2018・1・25）

完璧に実践された経営構想、実験をいとわない有機ぶどう栽培者そして価値多い研究・育種活動。連邦大臣シュミットは、ベルリンで開催された2018年国際緑の週間における、2018年連邦有機農業コンクール受賞者の栄誉を讃えた。3つの有機農業経営が、2018年連邦有機農業コンクールへの参加において、審査委員会を印象深く納得させた。特にその構想と非凡なアイデアに関して、審査委員会から受賞者として選定された。

- ヴュルツブルグ（Würzburg）にあるシュタイン ワイン農場
- ハーゼヴィンケル（Harsewinkel）にあるシュトロートレース有機農業経営
- バートヴィルベル（Bad Vilbel）にある合資会社デメター農業協会ドーナフェルダール農場

受賞者は、7500ユーロ（約100万円）の賞金を受け取った。

大きな革新力をもったワイン農場

”全体構想”について、審査委員会はこのワイン農場を表彰した。第5世代における家族ワイン経営は、持続性の原則に一貫して方向付けしたことで受賞した。ワインの品質向上のために、目標とする手入れと急勾配の古いブドウ園の修復、並びに革新的な有機対策の実践を行った。数多くのイベントを通じた広範な広報活動は、成果多いマーケティングと、適切な有機産物の流通が結びつくことを、印象的に示している。

パイオニア精神：将来を指向した経営構想

同様にカテゴリー”全経営構想”の中で、シュトロートレース有機農業経営は、審査委員会を納得させた。経営主夫妻は、副業経営から有機農業への転換によって、将来を指向した主業経営に発展させた。

種に適した家畜の飼育に即応して自らの直売を伴った経営は、特別な関心事である。有機農業シュトロートレース経営は、有機農業に関して特に設計した経営構造、手本とすべき地域構想、積極的な環境活動、大きなパイオニア精神そして活発かつ長年にわたるボランティア活動が、表彰された。

経営における実践に即した研究

審査委員会は、”作物栽培と作物育種”の領域において、デメター農業共同体ドーテンフェルダー農場（合資会社）での、有機育種—作物栽培研究における数多くの価値多い成果と、彼の大きな社会参画について受賞を決定した。その際、中心的な研究活動は、有機栽培の特別な要請に対応した種の開発と育種である。長期的、広範なそして実践に即した研究活動は、”農場での調査”並びにドーテンフェルダー農場でも、他の実践農場でも実施されている。その際、大学と研究施設との密接な共同において、研究活動が実施されている。柔軟で広範な広報活動は、実践における研究成果の実践に配慮されている。

連邦有機農業コンクール

2018年連邦有機農業コンクールには、24経営体が応募した。2001年以来、連邦食料・農業省は指針となる構想、特に成果多く有機農業を営んでいる農業経営、または共同経営の賞でもって表彰している。さらに特に家畜の飼育、自然—資源保護またはエネルギーマネジメントの分野に、結びついている問題の解決が含まれる。

2018年連邦コンクールは、全体で22 500ユーロ（約300万円）の賞金を供している。盛大なる表彰式は、国際緑の週間で2018年1月25日に、経済、団体、科学そしてメディアからの参加者200~250人の前で開催された。

2手本となる特性をもった持続的な木材建築プロジェクトを公募

～2018年度連邦木材建築コンクール～ (2018・1・22)

国際緑の週間に関連して、連邦食料・農業省は”再生可能な資源での木材プラス—建築”第4回連邦コンクールの号砲を發した。このコンクールについて、連邦大臣シュミットが述べた：”ドイツにおいて見積もりで350 000の新築家屋が不足している。この全体需要を克服するために、木材が大きな潜在力を提供する。”

木材は短期間の建築期間だけでなく、建築に際してCO₂汚染減少のために、大きく貢献している。建築業における木材製品は、長期間利用されそして同時に木材に含まれる炭素は、長期的に木材と結びついて、気象保護効果が特に高い。木材と他の再生可能な原料は、慣習的な建築材にとってかわる、気象に優しい選択肢である。木材建築は、農村地域における価値の創造と就業のための、積極的な効果をもたらす、木材使用のための「引き馬」を發展させる。

2018年もまた我々は、「木材建築プラス再生可能な原料で建築」のコンクールで公募し、そして実例特性を把握しこれを明示する。そのため、我々は50000ユーロ（約650万円）準備している。このコンクールの目的は、既に再生可能な原料でもって、将来を指向した建築の利用とさらなる發展のための情報を、社会へ広範に情報提供する。そして昨年において發展した多様な可能性を、デモンストレーションする。

応募プロジェクトは、以下の要請が求められる：新築に際して建物構造（組み立て）、または予め生産された木材からの建築部品のような、重要な建築部分を創り出す。再建においては、石材建築も認められる。それに加えて全ての建物について、再生可能な建築材を広範に用いなければならない。例えば、再生可能な暖房材、バイオを基礎とした、ないしは内部改装の自然的な建材など。

加えて審査委員会は、エネルギーに係る建物構想もまた、再生可能なエネルギーも含めて募集する。次のカテゴリーの中で、挑戦的な新築と修復対策が優先される。

- 住宅
- 公共建造物
- 営業用の建物

受賞者の選定は、中立のコンクール審査委員会が決定する。応募者は、プライベート、営業または公的な建築主が、2013年8月から2018年8月までの期間中に、革新的な建物を建築完了ないし、今ある建物の修復を終えたものである。

3 ドイツ連邦参議院が家畜飼育における抗生物質投入に関する法改正を可決
(2018・2・2)

連邦大臣シュミットから提出されていた獣医学上の農場常備薬規則の第2回目の改正は、ほんの僅かの修正でもって連邦参議院で合意された。家畜への抗生物質使用のための新規則は、抗生物質耐性の進展食い止めのために役立つ。この規則は、特に以下の規定を含んでいる。

- 人間の感染症治療のため特に重要である特定の抗生物質の使用変更の禁止（農場備蓄抗生物質）
- 治療決定のための重要な要因としての耐性記録作成義務：特定の事例での獣医学上の細菌による病原体の感染を抗生物質でもっての検査義務同時に治療の最善化と耐性の拡大阻止
- この検査導入の方法について細菌の遮断並びに耐性記録の作成
- 獣医の情報一証明義務

この規則は第16回薬事法一改正でもって、新たに導入された薬事法の権限を基礎としている。同時に家畜飼育における抗生物質使用の全般的な最少化のための方法と、一定の作用物質でもっての特に限定的な取り扱いを、首尾一貫して継続する。家畜保護の理由から、特定の抗生物質の使用を禁止することも、勿論予定していない。なぜならば：病気の家畜は、必要な医学上の配慮が保証されるべきである。

さらなる歩み

連邦参議院は、獣医学上の農場常備薬に関する規則改正のための第2規則を、2018年2月2日に可決した。連邦参議院の決定した改正法に基づき、次の歩みは閣議による承認である。閣議での取り扱いは、2018年2月21日である。

目的：最適な治療が保証され、そして改善される。新しい規則は、ドイツ抗生物質耐性戦略 2020 (DART 2020) 実践のためのドイツ連邦食料・農業省の貢献である。これは治療一最適化を含み、そして改善されるべきことを、表明している。抗生物質のそれぞれの使用一人間と家畜一は、抗生物質の効果でもって、細菌から守る。新しい抗生物質の発展が停滞しているために、今ある抗生物質でもっての感染症の治療可能性において、持続的に耐性の発展と拡大の阻止を追及する。

ドイツの抗生物質使用戦略並びに持続戦略(DART)2020は、新しい抗生物質の開発、治療の選択肢そして診断学の改良が内容である。さらに分野を越えたそして分野特有の対策を発展させる。抗生物質耐性の拡大を阻止するために。

このいわゆる”1つの健康一方法”が、獣医一人間医学と密接に共同活動しなければならないことを、強調している。

連邦政府はDART 2020において、特に抗生物質の責任の重い使用のために、尽力することを計画している。人間の感染症治療のために特別に重要な作用物質が、人間と家畜について投入されるべきである。他の作用物質が治療に使用できない場合に。治療決定の基礎は、臨床上の診察と並んで、今ある抗生物質の作用物質の選択に対して、罹病しやすい状況で病気を引き起こす細菌の検査もまた基本である。

背景：

連邦食料・農業省は、獣医学上の農場常備薬規則改正のために、まず第一に合意書を作成した。この合意書は、2015年11月に公表され、そして専門家会議で詳細に議論された。

2018・2・3 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
